

平成30年3月期

決算説明会



- CONNECTING THE FUTURE -

平成30年5月9日

ヒロセ電機株式会社〔6806〕

■ 注意事項

本資料には、ヒロセ電機の現時点における予測に基づく記述が含まれています。

これら将来に関する記述は、既知または未知のリスク及び不確実性その他の要因が内在しており、当社における実際の業績と異なる恐れがあります。ご承知おき下さい。

H29年度（H29/4～H30/3）ビジネス概況

H29年度
（4月～3月）

受注高 **1,267.5** 億円
（対前年同期比 **+8.7%**）
売上高 **1,252.8** 億円
（対前年同期比 **+8.8%**、 対公表値比 **-0.6%**）
経常利益 **292.3** 億円 ※利益率 **23.3%**
（対前年同期比 **-1.9%**、 対公表値比 **-3.5%**）

スマートフォン

スマートフォン市場向け売上は新規需要が従来より減少し、買い替え需要もやや鈍りながらも、高速化や機能強化した新機種在台頭により、年間では対前年比 +4%となった。但し、第4四半期は中国向け等の在庫調整により、一時的に急減した。

一般産機

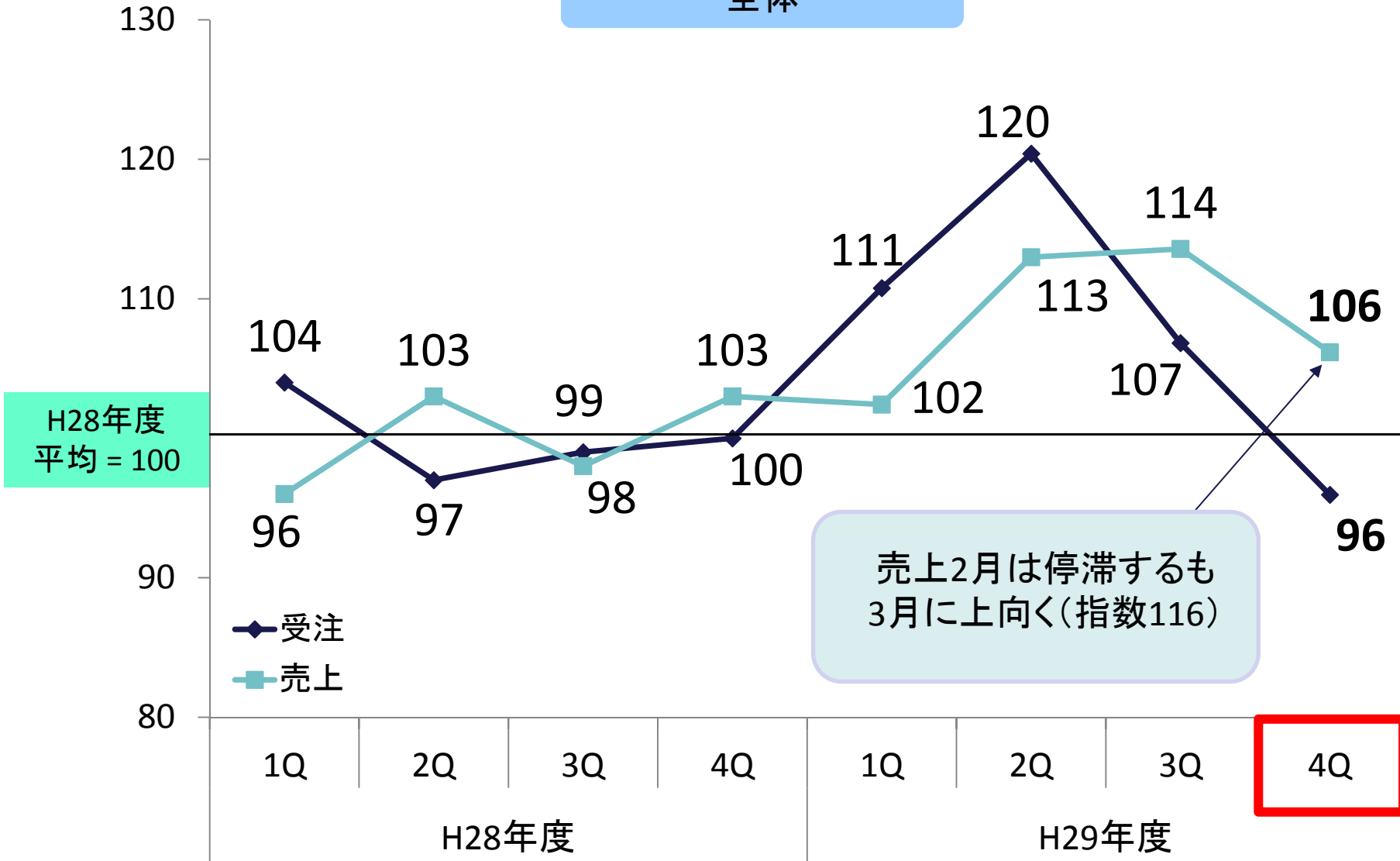
産機市場向け売上は、IoT需要や各種部品不足に伴う設備投資増に伴い著しく増加。FA関連向けや代理店経由なども含め全般的に好調が継続し、第4四半期も好調、年間では対前年比 +27%となった。

自動車

自動車市場向け売上は、第4四半期も堅調に推移し、年間では対前年比 +5%となった。

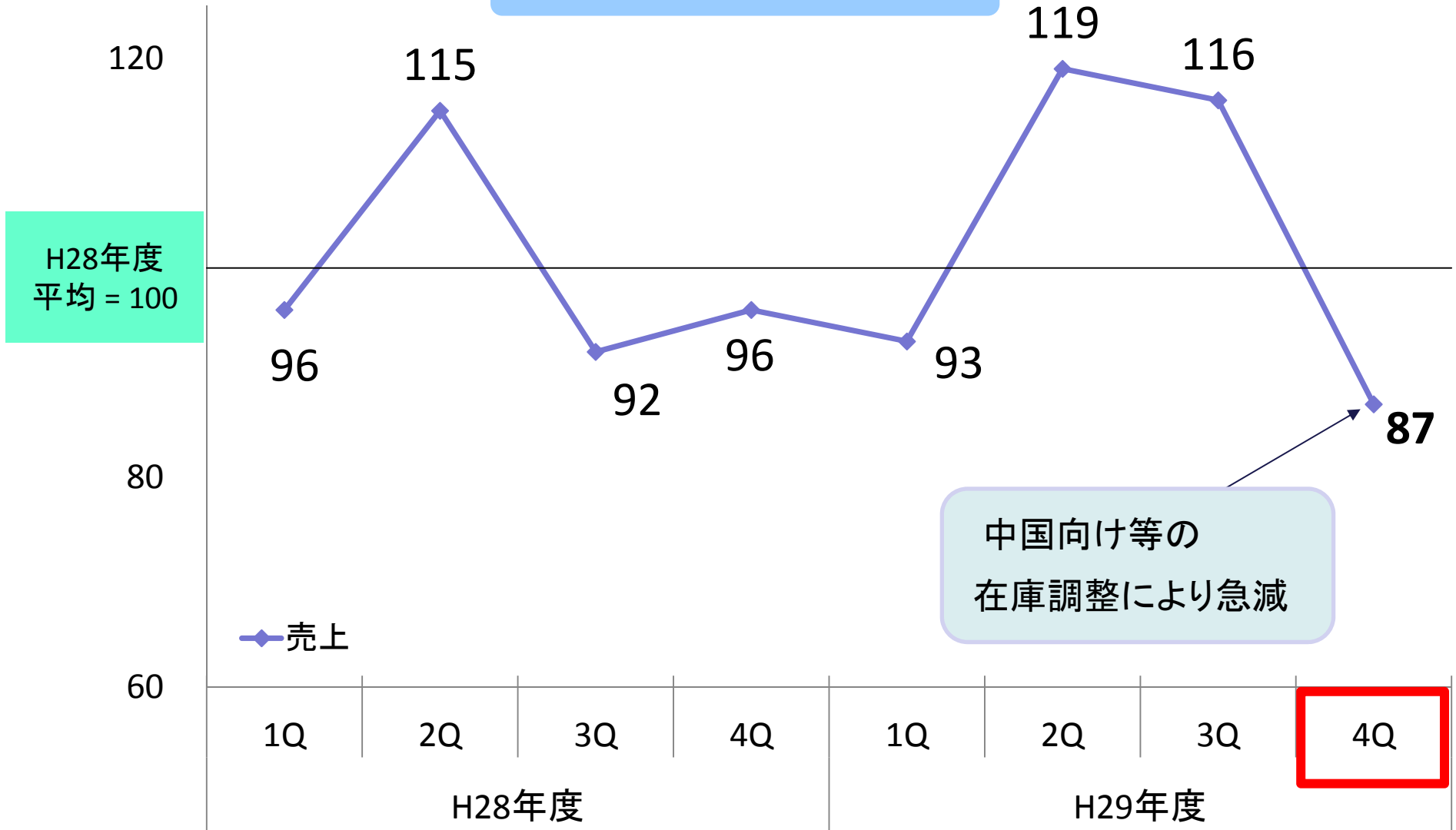
H28年度1Q～H29年度4Q 受注・売上推移(ヒロセ連結ベース、指数表示)

全体

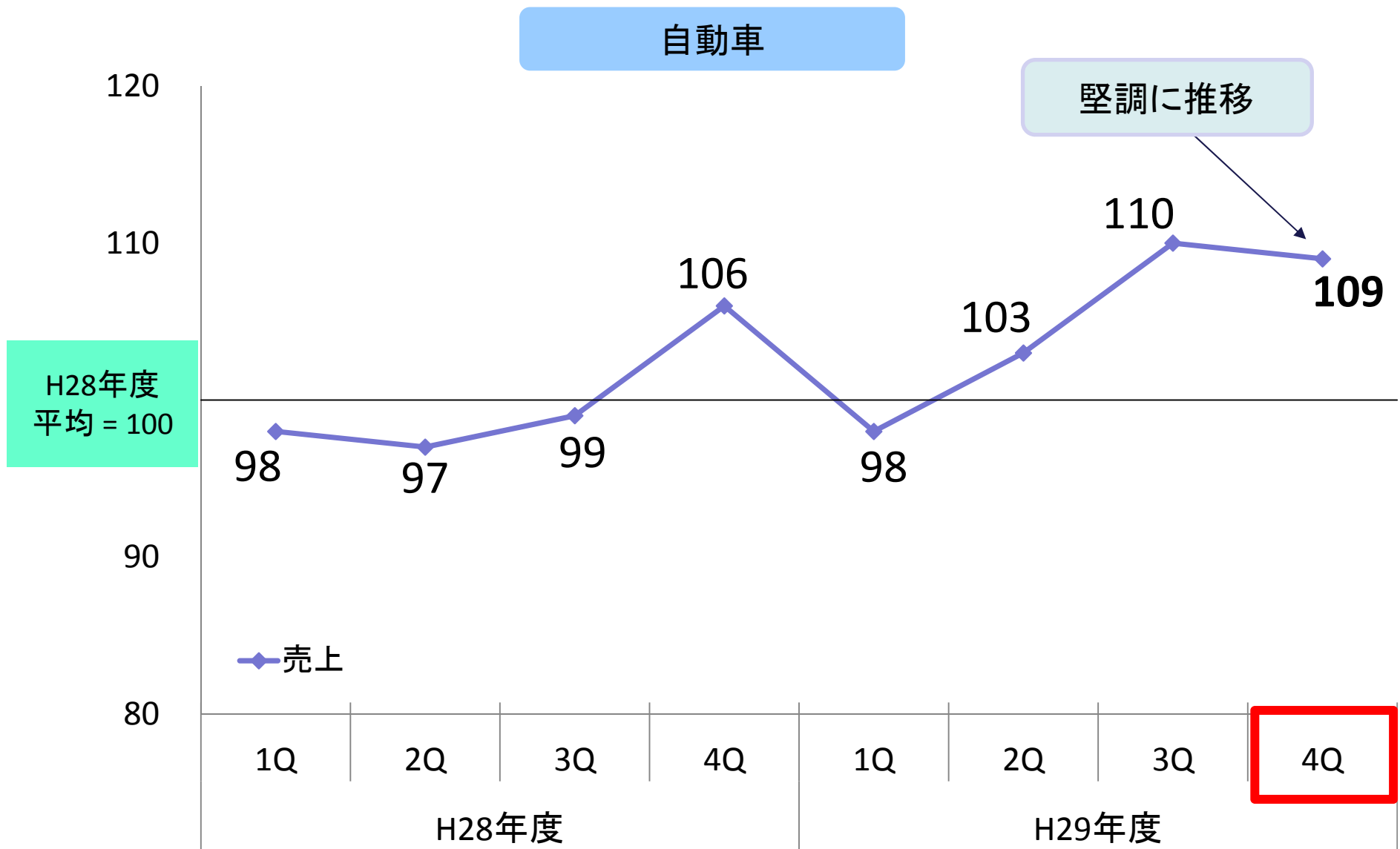


H28年度1Q～H29年度4Q 用途別売上推移(ヒロセ連結ベース、指数表示)

スマートフォン・携帯電話

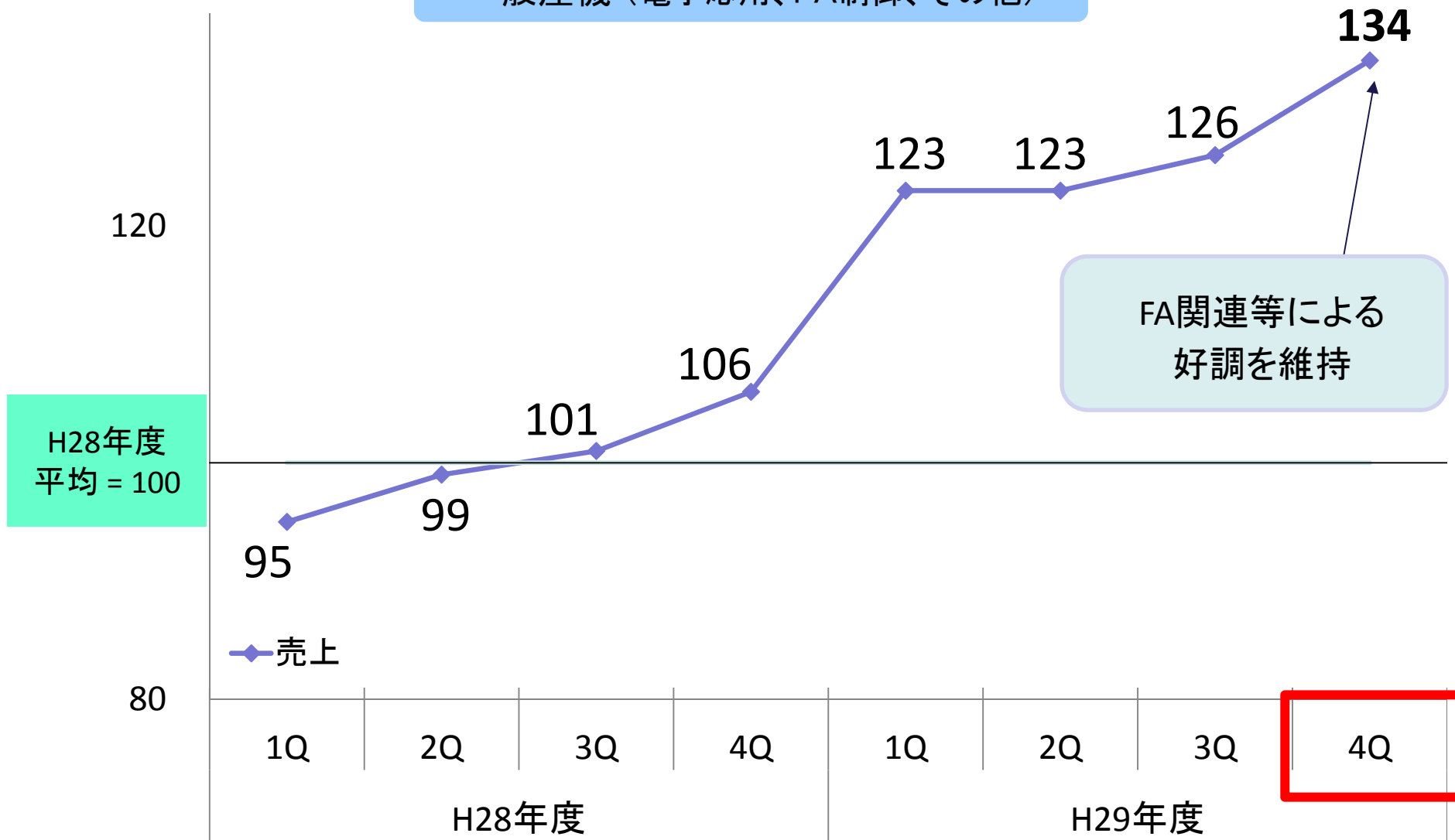


H28年度1Q～H29年度4Q 用途別売上推移(ヒロセ連結ベース、指数表示)



H28年度1Q～H29年度4Q 用途別売上推移(ヒロセ連結ベース、指数表示)

一般産機（電子応用、FA制御、その他）



H29年度 連結決算概要

(金額単位: 億円)

	H28年度 (H29/3月期)	H29年度 公表値	H29年度 (H30/3月期)	増減額 (対前年比)	増減比 (対前年比)
売上高	1,151.0	1,260.0	1,252.8	101.8	8.8%
売上原価率	53.1%	—	53.9%	+0.8%	
販売・管理費比率	22.2%	—	23.2%	+1.0%	
営業利益	284.8	292.0	286.5	1.7	0.6%
(%)	24.7%	—	22.9%	-1.8%	
経常利益	298.0	303.0	292.3	-5.7	-1.9%
(%)	25.9%	—	23.3%	-2.6%	
当期利益	213.6	214.0	195.3	-18.3	-8.6%
(%)	18.6%	—	15.6%	-3.0%	
総資産残高	3,267.0		3,394.6	127.6	3.9%
自己資本比率	90.6%		89.4%		
一株当り当期利益	611.81円		560.87円		
一株当り配当	240円		480円		
連結配当性向	39.2%		85.6%		

■売上高

101.8 億円 増

ヒロセ単体 : **+ 100.4** 億円

子会社 : **+ 1.4** 億円

■売上原価率

0.8 ポイント悪化

仕入原価費率 : 38.5% → **38.0%**

減価償却費率 : 5.0% → **6.1%**

労務費率 : 5.5% → **5.8%**

■販売・管理費比率

1.0 ポイント悪化

人件費等の費用増(+36.0億)

■営業外損益

7.3 億円 減 (13.2億円 → 5.8億円)

為替差損益 : **-2.1 億円 → -9.6 億円**

■特別損失

3.8億円 増 (4.6億円 → 8.4億円)

固定資産除却損 : 4.6 億円 → **8.4 億円**

■法人税等

8.8億円 増 (79.8億円 → 88.7億円)

移転価格税制調査による更正見込み額
8.0億円計上

	H28年度	H29年度
為替レート:US\$	108.38円	110.85円
為替レート:€	118.79円	129.70円
為替レート:100ウォン	9.45円	10.0円



(単位:億円)

対前年同期為替影響額	
売上高	+39.4
営業利益	+16.0
経常利益	+8.9

【H29年度 対前年度 變動分析】

(単位：億円)

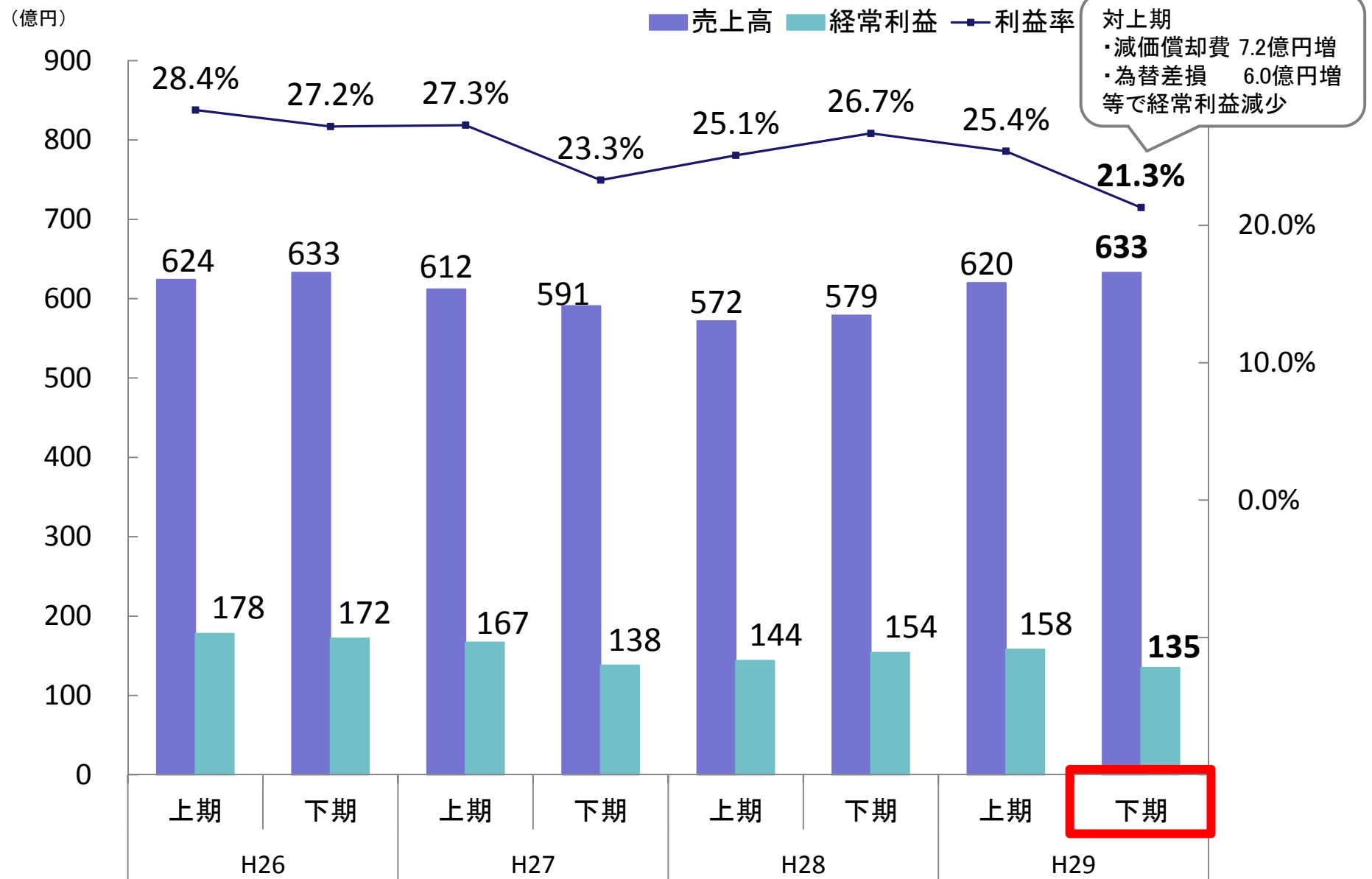
	売上	営業利益	営業利益率	経常利益	経常利益率
H28年度実績	1,151.0	284.8	24.7%	298.0	25.9%
為替影響	39.4	16.0		8.9	
減価償却費増		-26.2		-26.2	
人件費増		-30.0		-30.0	
物量増他	62.4	41.9		41.6	
変動額計	101.8	1.7		-5.7	
H29年度実績	1,252.8	286.5	22.9%	292.3	23.3%

【H29年度 対公表値 變動分析】 *2017/10/31公表値との比較

(単位：億円)

	売上	営業利益	営業利益率	経常利益	経常利益率
H29年度公表値	1,260.0	292.0	23.2%	303.0	24.0%
為替影響	12.8	4.8		-2.8	
減価償却費減		6.7		6.7	
人件費減		0.3		0.3	
物量減他	-20.0	-17.3		-14.9	
変動額計	-7.2	-5.5		-10.7	
H29年度実績	1,252.8	286.5	22.9%	292.3	23.3%

半期別 売上高・利益 実績推移



連結貸借対照表主要増減

(億円)

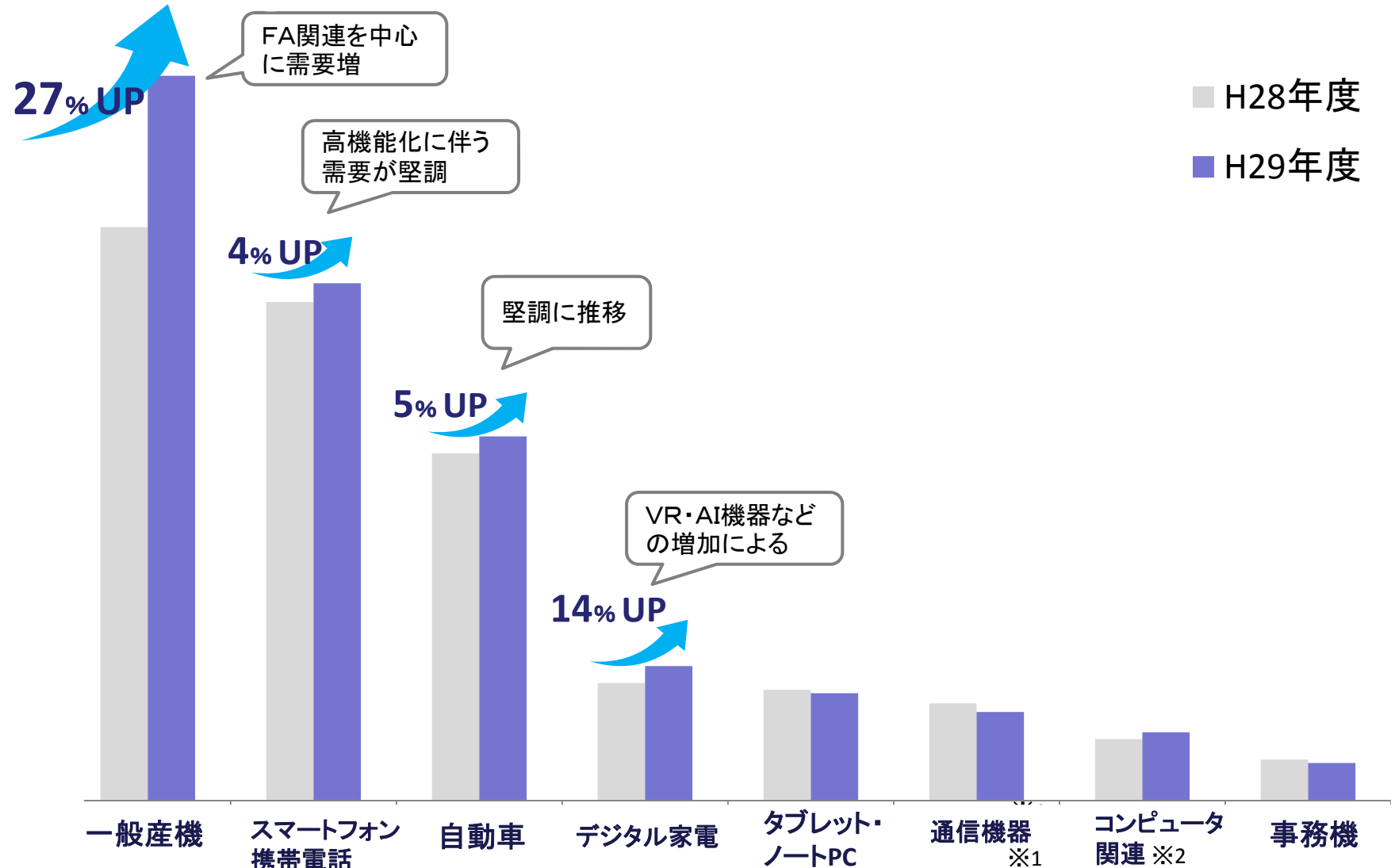
区分	科目	H29/3末	H30/3末	増減額	備考
資	現金及び預金	1,852.5	1,865.7	13.2	国債償還等に伴う増
	受取手形及び売掛金	284.9	300.0	15.1	2018/3月売上高増に伴う増加
	有価証券	218.9	131.0	-87.9	国債償還等に伴う減
	棚卸資産	88.9	117.0	28.1	第4四半期スマホ低迷により増加するもH30年度売上へ
産	固定資産	455.9	539.3	83.4	機械装置・金型等増
	投資有価証券	264.5	329.8	65.3	社債等増
	その他	101.4	111.8	10.4	
	合計	3,267.0	3,394.6	127.6	

連結貸借対照表主要増減

(億円)

区分	科目	H29/3末	H30/3末	増減額	備考
負 債	支払手形及び買掛金	113.9	131.7	17.8	
	未払法人税	37.6	49.5	11.9	移転価格税制調査による 更正見込み額 8.0億円
	その他	152.5	175.6	23.1	
		304.0	356.8	52.8	
純 資 産	利益剰余金	3,214.9	3,284.9	70.0	当期純利益 195.3 億円 － 配当 125.3 億円
	自己株式	- 589.0	- 583.2	5.8	
	その他有価証券 評価差額金	73.7	73.1	-0.6	
	為替換算調整勘定	53.1	53.7	0.6	
	その他	210.3	209.3	-1.0	
	合計	2,963.0	3,037.8	74.8	
	負債及び純資産合計	3,267.0	3,394.6	127.6	

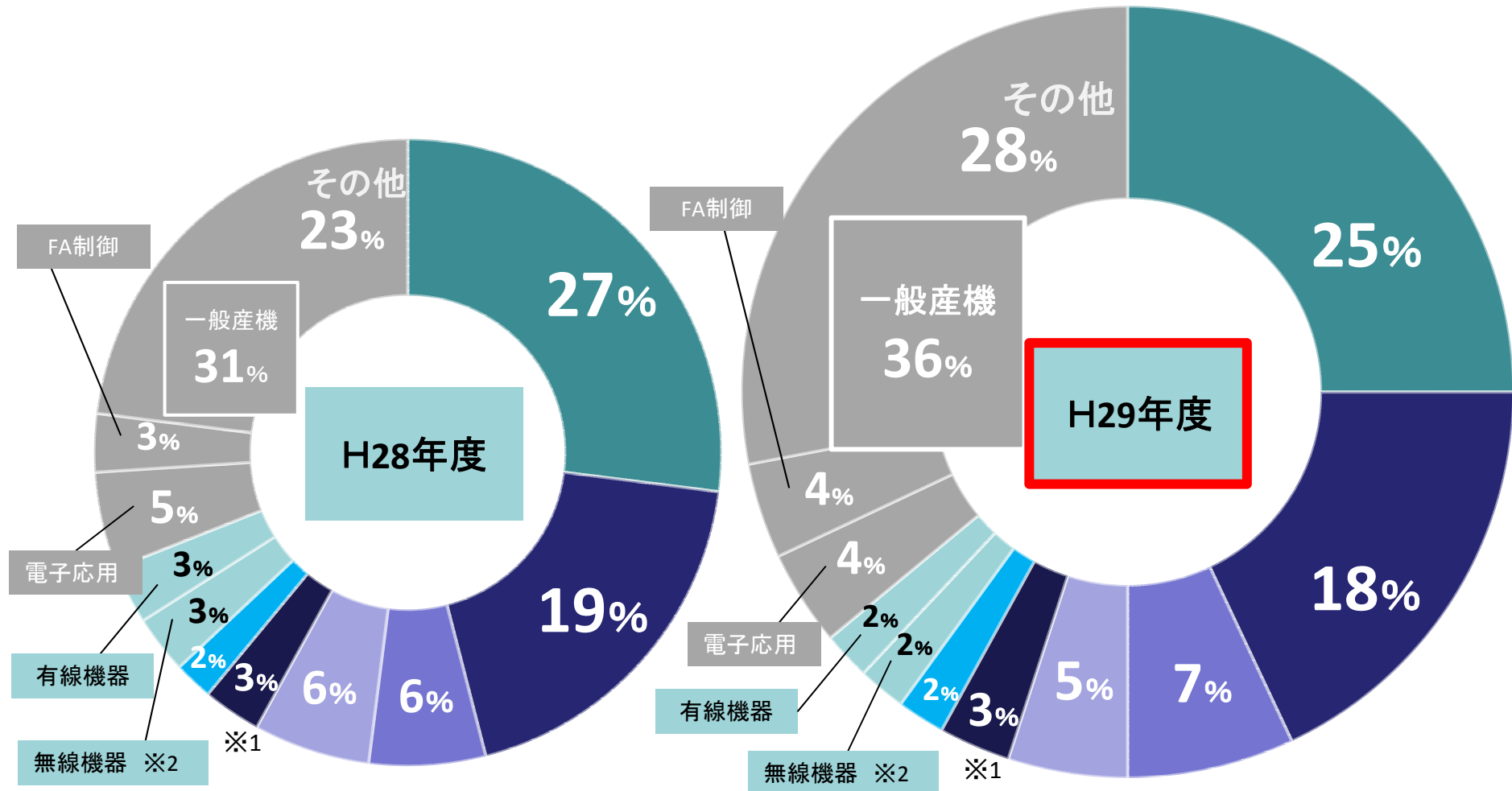
コネクタ用途別売上 前年比較(概数) 【連結ベース】



用途別構成比は概数により実際との誤差の可能性があることをご承知願います。

※1通信機器・・・スマートフォン・携帯電話を除く通信機器
 ※2コンピュータ関連・・・タブレット・ノートPCを除くコンピュータ関連機器

コネクタ用途別売上構成比(概数)【連結ベース】

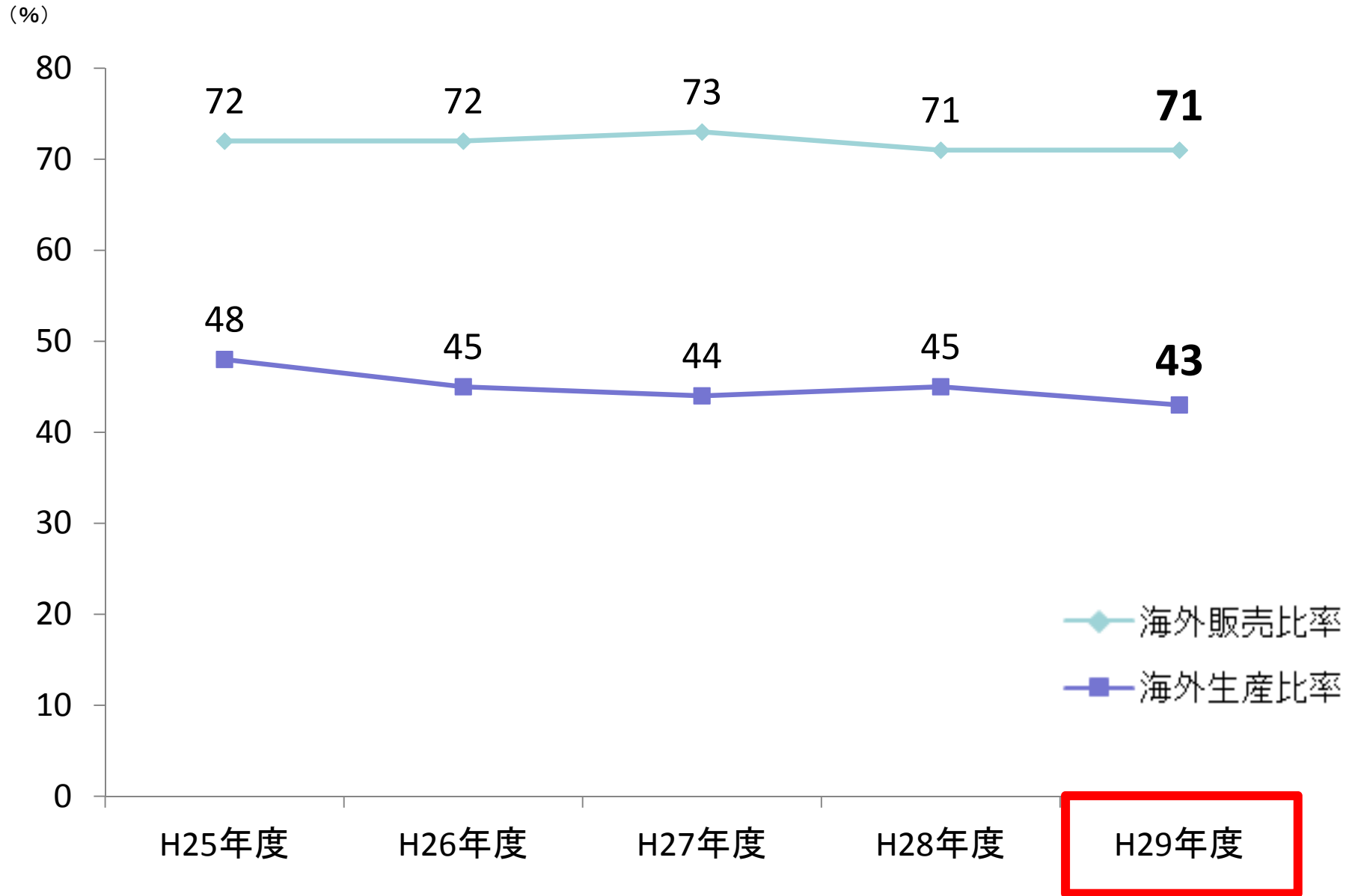


■ スマートフォン・携帯電話
 ■ 自動車
 ■ デジタル家電
 ■ タブレット・ノートPC
 ■ コンピュータ関連
■ 事務機
 ■ 通信(無線機器、有線機器)
 ■ 一般産機(電子応用、FA制御、その他)

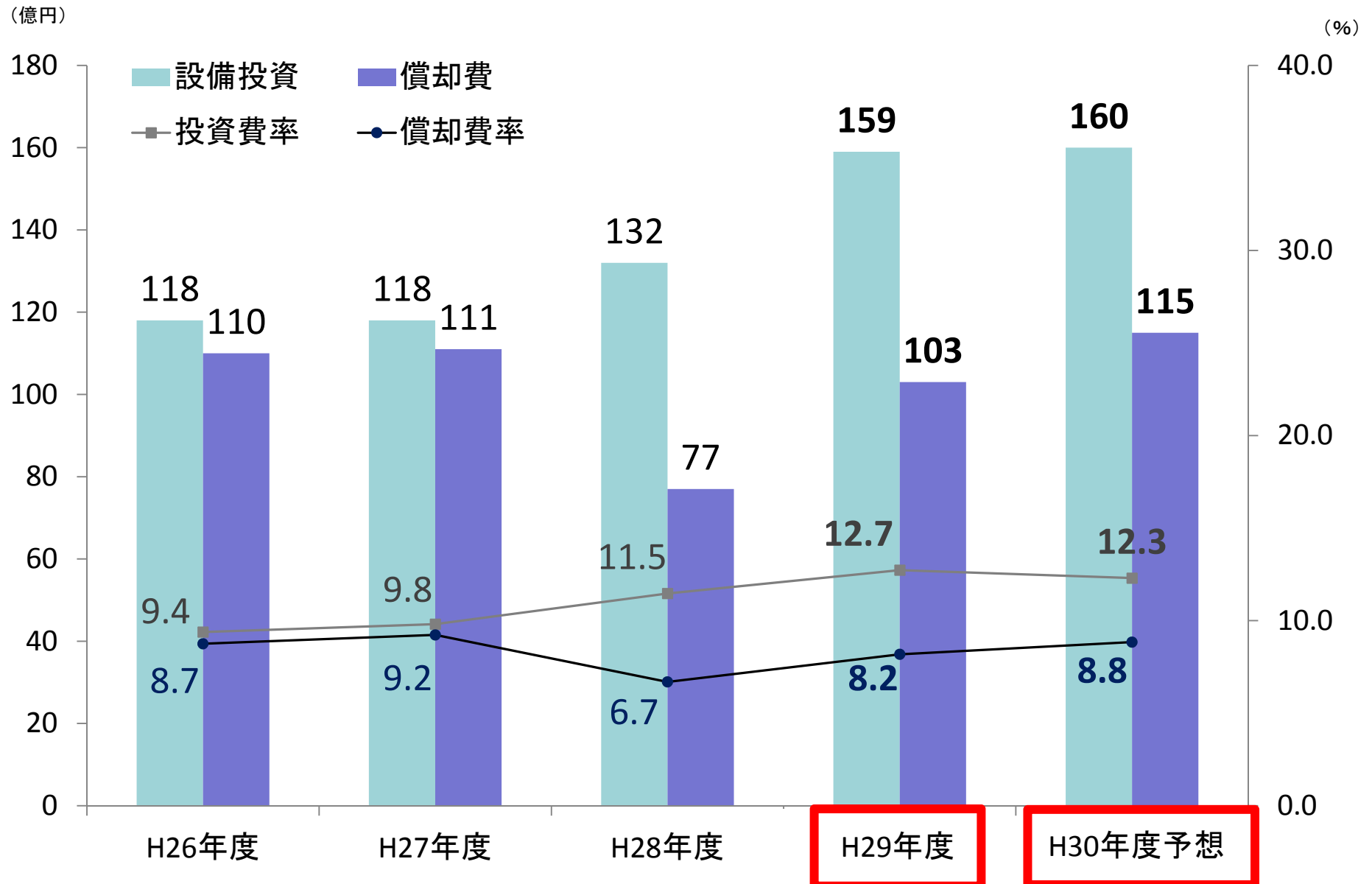
用途別構成比は概数により実際との誤差の可能性をご承知願います。

※1 コンピュータ関連・・・タブレット・ノートPCを除くコンピュータ関連機器
 ※2 無線機器・・・スマートフォン・携帯電話を除く無線通信機器

海外生産比率・海外販売比率 推移

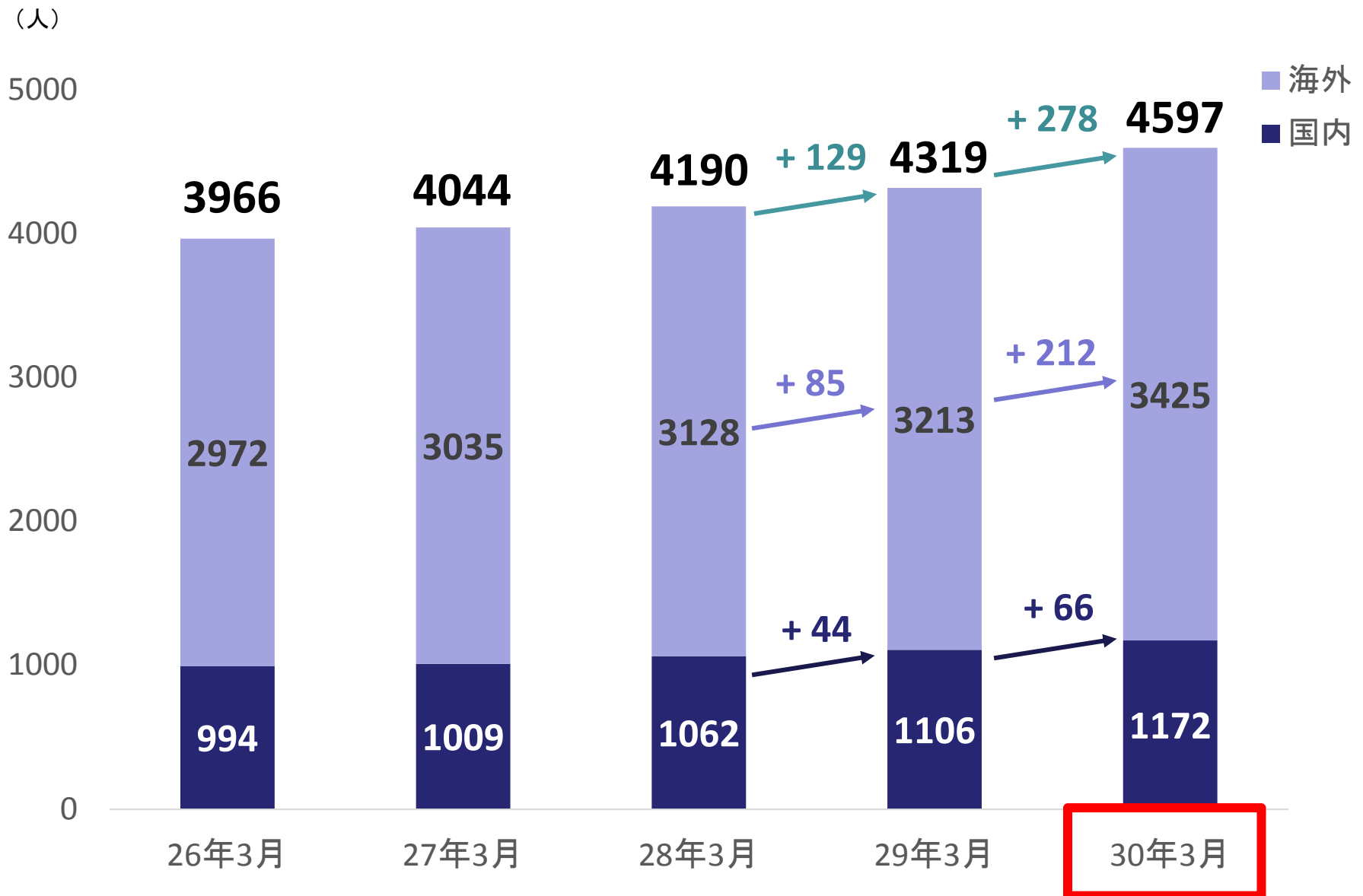


設備投資・償却費 推移(連結ベース)

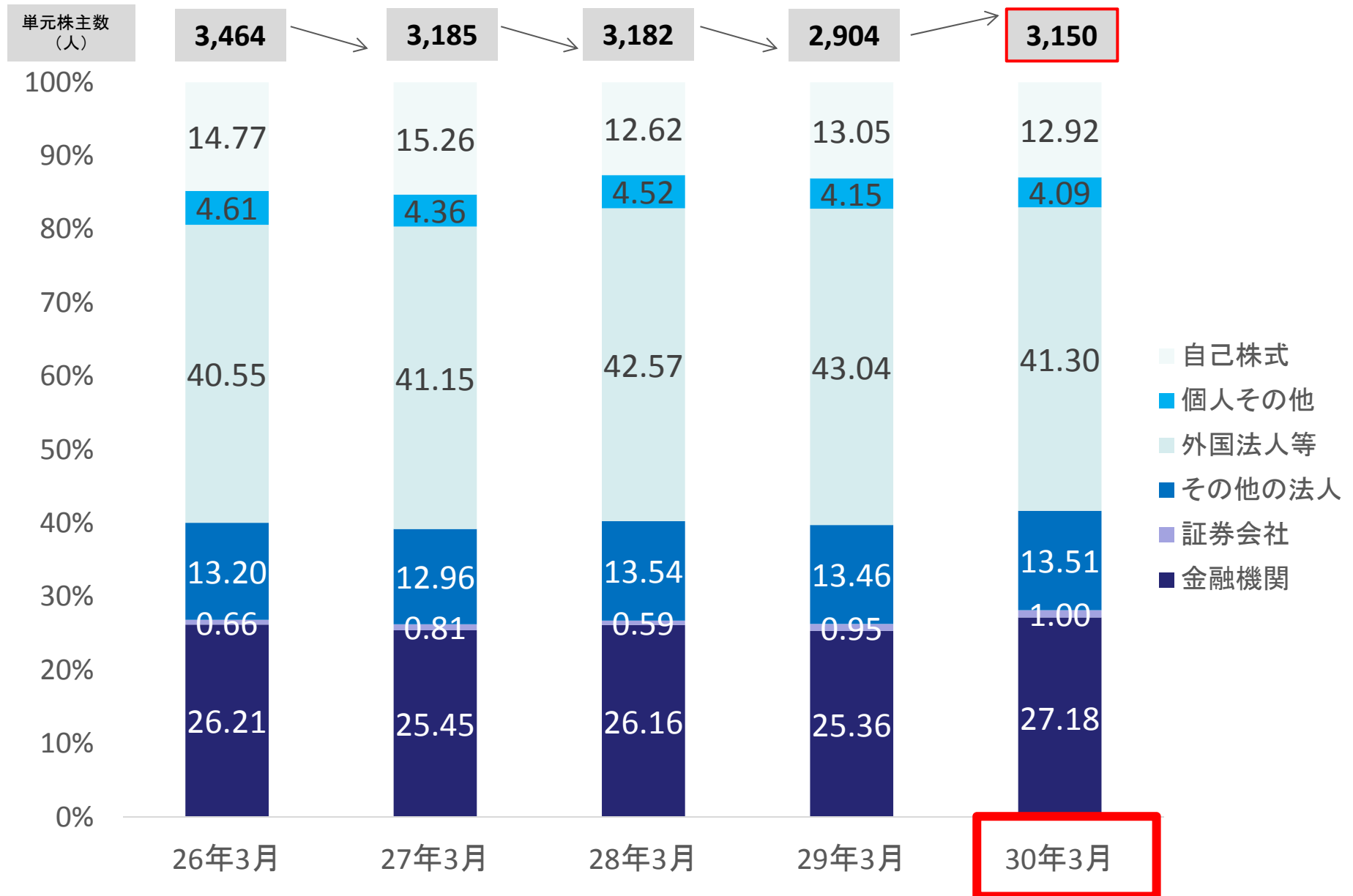


(※除く土地・建物・ソフトウェア投資)

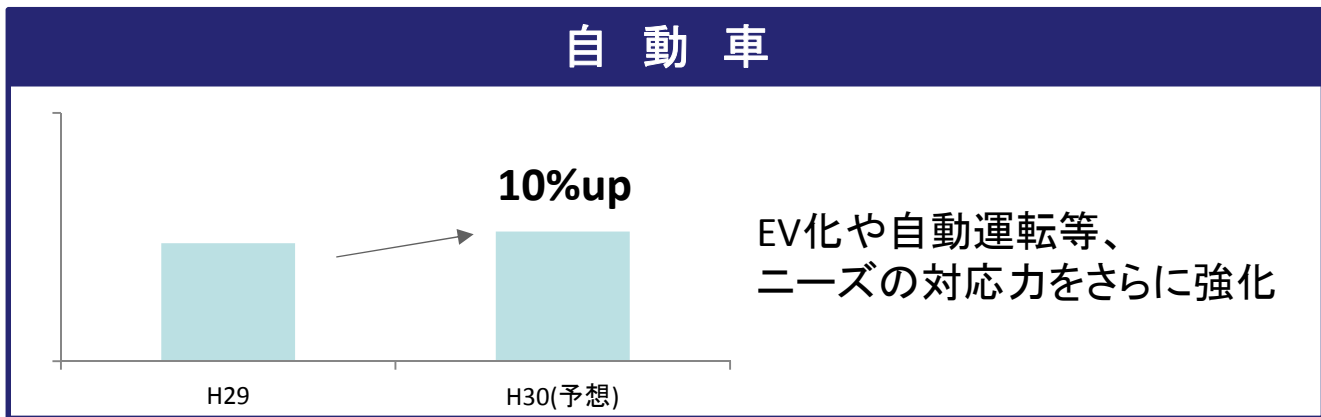
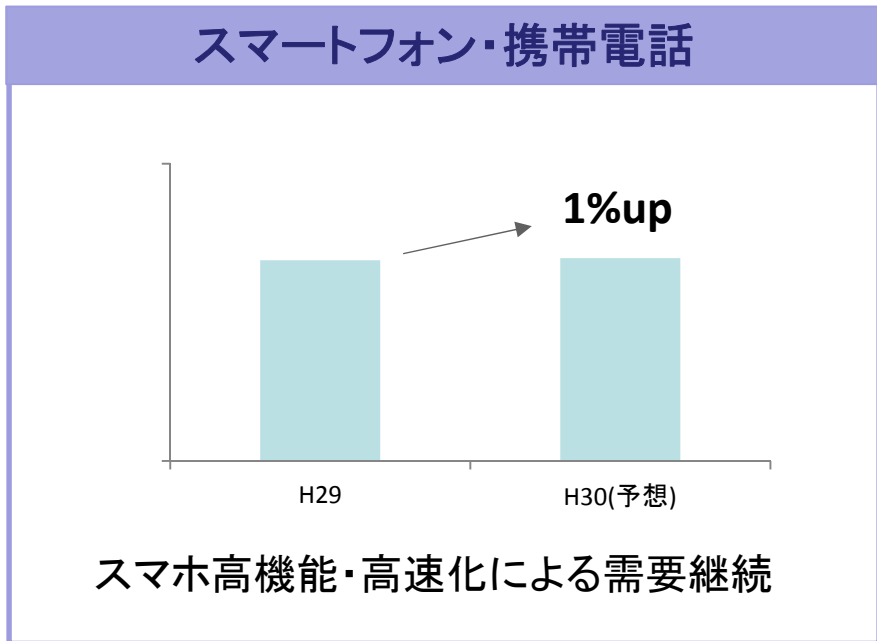
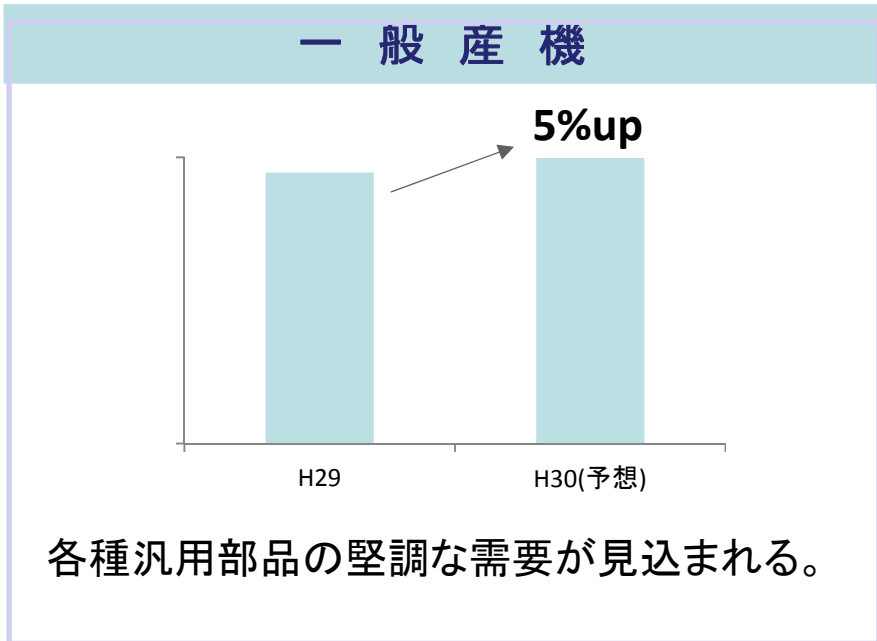
従業員数 推移 (有報ベース)



株式分布推移



自動車向けの伸長、産機向け堅調を見込む



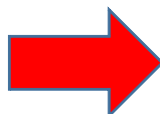
H31年3月期 業績予想(連結)【IFRS基準組替】

【日本基準】

【IFRS基準】

(金額単位: 億円)

	H29年度 (H30/3月期) 実績	H30年度 (H31/3月期) 予想
売上高	1,252.8	1,303.0
売上原価	675.1 53.9%	720.0 55.3%
売上総利益	577.7	583.0
一般費	291.2 23.2%	298.0 22.9%
営業利益	286.5 22.9%	285.0 21.9%
営業外収益	17.7	16.6
営業外費用	11.8	12.9
経常利益	292.3 23.3%	288.7 22.2%
特別利益	0.0	0.0
特別損失	8.4	5.7
税前利益	283.9 22.7%	283.0 21.7%
法人税等	88.7 31.2%	83.0 29.3%
当期利益	195.3 15.6%	200.0 15.3%



IFRS基準組替				H30年度 (H31/3月期) 予想	
販売手数料	利息配当	為替	固定資産除却損		
-3.0				1,300.0	売上収益
				720.0 55.4%	売上原価
				580.0	売上総利益
-3.0				295.0 22.7%	一般費
					(旧)営業利益 ※IFRSでは開示されません
	-10.8			5.8	その他収益
		-0.8	5.7	17.8	その他費用
				273.0 21.0%	営業利益 (IFRS)
	10.8			10.8	金融収益
		0.8	-5.7	0.8	金融費用
				283.0 21.8%	税前利益
				83.0 29.3%	法人税等
				200.0 15.4%	当期利益

H31年3月期 業績予想(連結)

【日本基準】

【IFRS】

(金額単位:億円)

	H29年度(H30/3月期) 実績		H30年度(H31/3月期) 予想	
	第2四半期累計	通期	第2四半期累計	通期
売上高	619.8	1,252.8	630.0	1,300.0
売上原価率	52.5%	53.9%	55.6%	55.4%
営業利益	151.4	286.5	130.0	273.0
(%)	24.4%	22.9%	20.6%	21.0%
経常利益	157.7	292.3	—	—
(%)	25.4%	23.3%	—	—
当期利益	109.2	195.3	95.0	200.0
(%)	17.6%	15.6%	15.1%	15.4%
一株当り当期利益	—	560.87円	—	546.58円
一株当り配当	240円	480円	120円	240円
連結配当性向	—	85.6%	—	43.9%

為替レート	H29年度実績	H30年度予想 (今回)
1US\$	110.85円	105.00円
1€	129.70円	130.00円
100ウォン	10.00円	10.00円

※H29年度一株当り配当には創業80周年記念配当(年間240円/株)を含みます。

役員人事について(異動予定日:平成30年6月27日)

取締役

代表取締役社長		石井 和徳(重任)
常務取締役	技術本部長 兼 製作本部管掌	中村 充男(重任)
常務取締役	営業本部長	近藤 真 (重任)
取締役	管理本部長	飯塚 和幸(重任)
取締役	技術本部 副本部長	岡野 広明(重任)
取締役	製作本部長	桐谷 幸雄(重任)
取締役	ヒロセコリア株式会社 代表理事社長	イ サンヨブ 李 相燁 (新任)
社外取締役		堀田 健介(重任)
社外取締役		元永 徹司(重任)

監査役

常勤監査役		千葉 良一(重任)
社外監査役		杉島 光一
社外監査役		瀬下 明
社外監査役		三浦 健太郎(重任)

“2018”中長期成長戦略について

2018, May 9th

ヒロセ電機株式会社

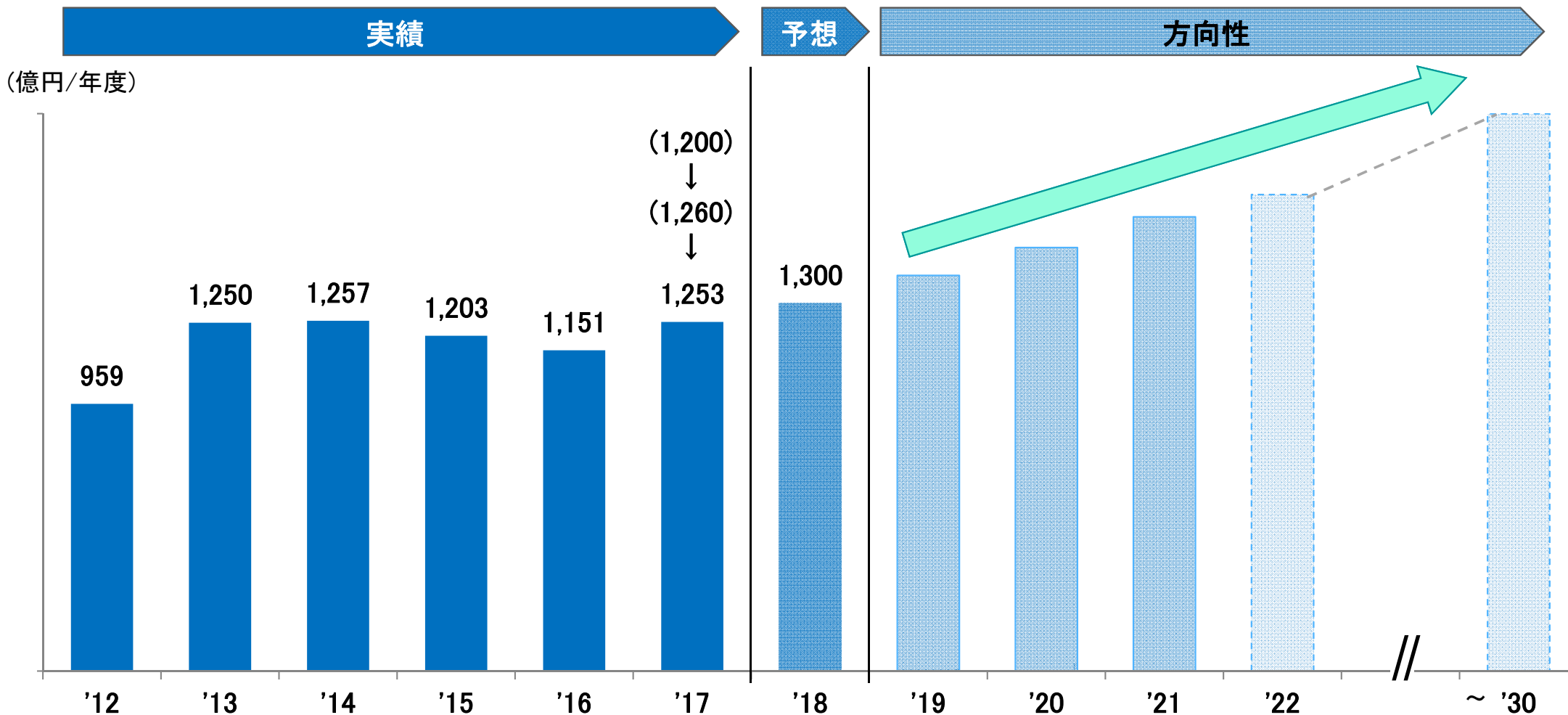
社長 石井 和徳

注意事項

本資料には、ヒロセ電機の現時点における予測に基づく記述が含まれています。

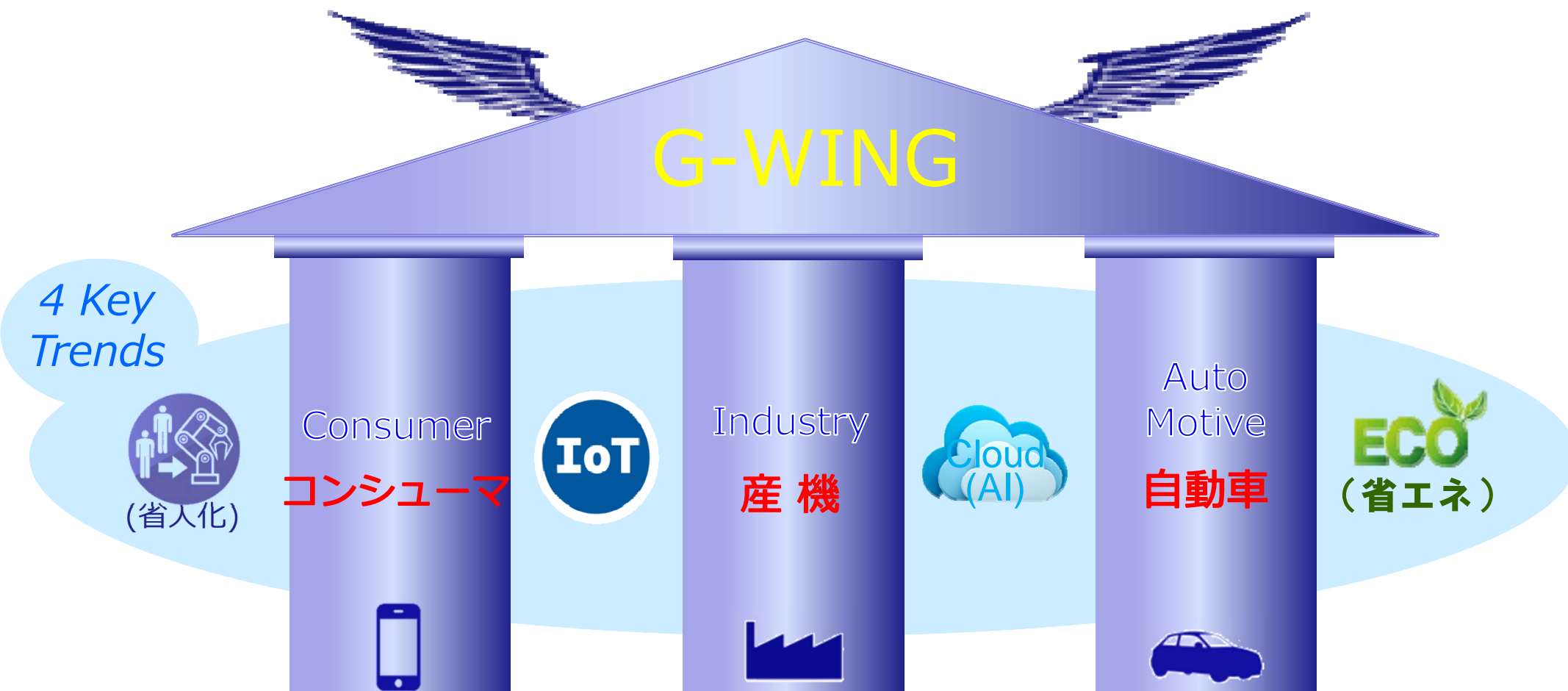
これら将来に関する記述は、既知または未知のリスク及び不確実性その他の要因が内在しており、当社における実際の業績と異なる恐れがあります。ご承知おき下さい。

高収益経営を維持し中長期的に売上成長



手元の事業状況を精査し、2018年以降の計画実行に臨む

〈プラス〉 中期[2018~2021]→長期[2022~2030]へ繋ぐビジネス基盤の構築を目指す



HRS/4 Key Tech : 「高速」, 「高周波」, 「ハイパワー」, 「小型化」

力強い3本柱を形成し、中計G-WINGを達成する

一関・試験センター新棟竣工 (2018年3月22日)

コネクタメーカー最大級2,600m²



■ 試験センター 対応ISO規格
ISO/IEC 17025

● 一関試験センターは試験所・校正機関の国際的認証システム
ISO/IEC 17025 を国内コネクタ専門メーカーとしては初めて、
2004年に認定取得

【認定項目】

試験	振動, 熱衝撃等含む32項目
校正	4項目

※横浜試験センターも2018年取得計画中

■ 他認証取得規格

ISO/IATF 16949、ISO 9001、ISO 14001

■ 強化した機能 (試験装置エリア約3倍に増強)

① 試験対応能力増強

新棟建設に併せて、試験設備も
150台以上に増強。製品により
試験L/Tの50%削減も可能。

② 自動車関連の試験設備拡充

複合振動試験機(USCAR)
耐水試験機 (IEC60529,ISO20653等)
塩水噴霧サイクル(IEC60068-2)
温湿度サイクル試験機(USCAR)
など



宮古工場 精密金型棟増築



2018年度稼働を予定

**金型精度「ミクロン」から「ナノ」へ
— 精密加工・精密測定 —**

**精密加工・測定を実現し
金型リードタイム短縮
金型製作キャパ拡大**

菊名事業所 金型センター



2019年度に稼働を予定

車載・産機への取り組みを強化

<<<2018年度>>>

➤ 『G-WING』達成へパワーUPを図る

- 〈1〉モノづくり力の探究
- 〈2〉技術開発力の強化
- 〈3〉Global対応力の加速

➤ “100周年”そして“次の未来”に向けて、 力強い実行を加速させる1年とする。